



脇本海岸 渚だより

他の記事も NPO の FB ページでどうぞ
<https://www.facebook.com/kamechidori>

NPO 法人
脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会
第 11 号（期間：2024 年 7～9 月）

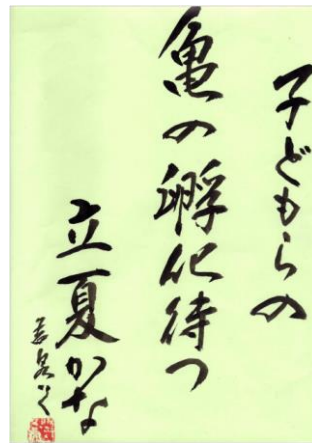
ウミガメの今シーズンまとめ

初上陸は例年とほぼ同じ 6 月 1 日で、7 月 29 日までの 2 カ月間に計 13 回、うち産卵は 7 カ所でした。産卵場所のうち 4 か所は浸水や人に踏まれる可能性があり移殖しました。2 頭のカメによる産卵で、3 回と 4 回の産卵をしたものと思われます。今年も産卵場所は海岸の中央より南側がほとんどで、1 か所のみ北側にありました。北側は事業者の光が砂浜へ漏れることや夕刻の海岸の人数が多いため、カメは警戒して南側（岩船側）での産卵が多くなっていると考えています。今年初めて実施した親子夜間巡回では何度か夜間の海岸侵入者に出会い、注意を促しました。

今年の高温気象は孵化にも大きな影響を与えました。通常は過半数の子ガメが夜中に一斉に巣から脱出しますが、高温で卵の成長がばらついたのか、あるいは高温に耐えかねたのかバラバラに出てくる巣が多かったです。過去には無いような、砂から頭を出したままの死亡や昼間に脱出する子ガメもありました。孵化率は昨年に比べ悪かったですが、鹿児島水族館が調査している多くの海岸で孵化率が酷かった中で「脇本海岸はこの暑い夏も乗り切ることができた貴重な浜だといえる」とのことです（担当；石澤）。

	海岸番号	産卵個数	産卵日	孵化日	孵化率
1	20番	78	6月1日	8月12日（72日目）	83.3%
2	26番	109	6月26日	8月16日（61日目）	80.7%
3	39番	120	6月24日	8月20日（57日目）	12.5%
4	33番	122	7月3日	8月20日（48日目）	54.1%
5	14番	112	7月10日	9月1日（52日目）	50.9%
6	33番	106	7月17日	9月4日（48日目）	68.9%
7	37番	126	7月29日	9月15日（48日目）	40.5%

総産卵数 = 773 総孵化数 = 415 全体孵化率 = 53.7%



子供らのウミガメ夜間巡回を
詠んで（書家 山口幸補先生作）



孵化できなかった卵は割って発生段階などを調べる（鹿児島水族館/NPO 合同調査）

脇本小学校から自然講座の御礼をいただく



脇小 3 年生 39 名にウミガメ講座、シロチドリ講座、花と鳥の講座（それぞれ 5、6、7 月）を開催し、時間を大幅に超過するほど多くの質問もあり、子供たちは大変興味を持って聞いてくれました。子供たちが、講師の NPO に御礼のメッセージを直接渡したいとのことで、大川内理事長が教室まで受け取りに行きました。ウミガメの形をしたボードに、一人一人が書いたメッセージを甲羅のように張り付けた素敵な御礼で、脇本海岸の自然を守る励みになりました。

紫電改残骸の場所を特定

太平洋戦争中に脇本海岸の岩船沖で、林大尉（戦死後、少佐）が乗った戦闘機（紫電改）が墜落したことは地元では有名で、先日の新聞に出水の戦争遺産の研究会が引き上げて保存することなどを検討している記事があり、8月にはその研究会と交流しました。研究会が4月に行った調査では機体は発見できなかったようですが、9月に当NPOの独自調査として、脇本浜の漁船の支援を得て、その残骸の一部と思われるものを発見しました。ほとんど砂に埋もれてしまっているのですが、潮流が変化した後など姿が現れたときに再確認する予定です。脇本海岸の22番目の貴重な史跡として登録し活用することを考えています。（調査メンバー；大川内、石澤、松尾、本脇、漁船支援；脇本浜区長播磨さん）



鳥の写真展と海岸の探鳥会

日本野鳥の会による県内の野鳥の写真展が阿久根市で初めて開催されました。当NPOが支援し、阿久根市の後援を得て脇本公民館のロビーで9月に1か月間掲示されました。三笠支所の窓口に来た人や、夕方の各種会議・練習会に来た人たちが、県内の美しい鳥や脇本海岸の野鳥の写真に見入っていました。最終日の9月29日には、脇本公民館近くの海岸で、昨年10月に続き2回目となる探鳥会が開催され、市内外から約30人のBirder（バーダー；野鳥を鑑賞・調査する人）が訪れて、昨年同様20種類以上の野鳥を確認しました。かわいいミュビシギの群れなどに歓喜の声が上がっていました。（担当；松尾、宮内）



地域、事業者への自然保護活動の紹介が広がる

これまで、地元の学校や集落の会合などで、脇本海岸の自然保護活動の紹介を行ってきていますが、新たに、学童クラブと事業者向けにも紹介が始まりました。（担当；石澤、松尾）



（阿久根学童クラブと第2阿久根学童クラブへの紹介）

子供たちは脇本海岸に死亡漂着したアオウミガメの甲羅の剥製に大興奮して触ったり、脇本海岸の貴重なアカウミガメの産卵映像に食い入るように見入っていました。答えに窮する珍質問も多く、にぎやかで楽しい講座となりました。市内在住でも脇本海岸を知らない子もいるようでした。地元の貴重な自然と、それを護る活動の大切さを多くの子供たちに知ってもらえたと思います。

（グランピング事業者への紹介）脇本海岸に開業して1年経ち、営業責任者が替わったことで脇本海岸の自然と保護活動の話をしてくれるよう当NPOへ依頼がありました。社長以下グランピング従業員に動画やウミガメの甲羅の剥製、シロチドリの卵の剥製など見せながら自然の豊かさとNPOの活動を知って頂きました。自然保護のための質問も多く、自然の豊かさに感動されているようでした。海岸の自然を大事にしながら、それを事業にも生かしていく、まさに「自然と人の協調」の模索がようやく始まりました。